

古今著聞集

七

2123

といひしをせんおぼれ下り酒のそをわたり
きかぬなりをれぬ舞よ今夕宿しり
とたよりしひびひは酒の酒とといひをれぬ
今夕り查ぬるお光廬の方と云りてをれぬ
事と二人のり先くともさりありありとておぼ
みわきわのりてとてたるりのたそとをれぬ
因丸なりとてお光登りてお鬼同丸をたわし
ていふの甲お光登りてとてわりのあり
わくわくわたりはさるお光とていそれぬお光
突さる半ゆとてお光とていひくお光とていひ

古今巻九

めををれぬお光とていひくわびぬお光
あてめたり鬼同丸お光のたるとてはより
お光何ぞとてあれと夜のうらにばお光とていひく
承りのそとていひのりてお光お光お光
も酔てお光お光もいひくお光お光お光
鬼同丸お光お光ののそとていひくお光お光
とていひのりてお光お光お光お光お光
お光お光お光お光お光お光お光お光
お光お光お光お光お光お光お光お光
お光お光お光お光お光お光お光お光

あがた事とあひく天井小いさうよりとたまひ入
よりとらのされりくもしてまれとのひく誰か
よむされど網をきりありさうめくか馳了(可未
い)でさねはあてきよりやがてまんずるをせが
く竹まじりとといえられど網ありてこれ毛に作
してゆかり鬼向ひびるはさくくく中へ今(カチ
ま)と解(解)けしうづしこそあひつをゆさうしきり
知くわいりり取んとあひくゆりの轆(轆)をれり
しとしあひ久して三井とのげれぬくくくれり
ひろひく市赤井の遠(遠)あてびんこの赤(赤)りやじり

古今巻九

小まぐゆへさふり野(野)の牛れわぬさる
中(中)ふとれた大(大)狐(狐)放(放)して狐(狐)小(小)川(川)あせてくれ
腹(腹)どうさやうてを中(中)へく同(同)中(中)又(又)知(知)り
乳(乳)光(光)あんだくく事(事)りり浮(浮)衣(衣)また力(力)とそとれ
うりさる網(網)を耐(耐)定(定)通(通)垂(垂)衣(衣)ホ(ホ)とれたふわりさる乳
光(光)了(了)ぬひくく廿(廿)の糸(糸)と具(具)あり牛(牛)その乳(乳)を
よのく牛(牛)追(追)相(相)あぐるといえられど定(定)衣(衣)はれも
がとあしくとくをそ射(射)るり湖(湖)は具(具)をそ足(足)穿(穿)
そ牛(牛)は網(網)いどあひえんとくり糸(糸)をぬえ死(死)り
牛(牛)小(小)ひくくろ川(川)をり人(人)あやとるるあり

牛乳服のやど候て候とてあらうなるに思ふ
牛乳とていふとてはく腹の内より大の量打力
とぬええ是物く乳光ふかりきり足れば鬼門丸
之々の勢射そく重なるに事々せぬ教ふ
向ひたり乳光のやとさへがばを力とぬええ鬼門
丸が影を打おとてきり座がてとておれど打力と
ぬええ鞠はまつてつとふかり候て取入ひさぐのよ
く候とてふきりとてなん取ぬるとたけくは候
ゆりきり他治りつとてふり候とてかりきりとてあや
祇乳光のそれなり保まきり候とて守源乳光の
○四

古今巻九

貞任まこと宗任むねととせしむる隆興たかたけふすこはれ善秋ぜんあきと還
たり孫守まご府とて秋田の城ふりきりきりきり
て軍いされ於のこたの澄よしみとれ白しろおは城しろにたり衣河えがわ此
城しろ名なきく川がわをこれの橋はしとててて曹そうふかき
矢やとてみく善我ぜんがり貞任まことふすえとてつあり
城しろのうらりりのかき居ゐきり一男ひとこ八橋やちを節義せつぎ家
衣川えがわ小退せたいとてせあおせとておくまじり城しろ見みさ
あふれきり川がわ之のせ物もののんといとれはうをれ
貞任まことふすりりきり

衣いののとてわくわくびあきり

とつりきり貞任之川を渡りて入るるをわ
むきて

年次下 叙のまづれのものさきり

と皆よりきつて耐義求むげりる勢とす
してゆふよりきつりれりてくひの力不盛
りてゆふ事なり

因物下 三年の合戦の後宇治をへりて戦はる
物致やむる河内房ねりて、まじりて宇治をへりて
武者なれに在りて其をねとせりてい
きり成義成れ而もあきくまけりて河内
の

古今巻九

〇二

人多くわりのひりたりをりて
やがて義成を之知らるに而もわ
つれとせきんぬきとせりて
ふのくまきりてをみよりて
グて骨子ふぬくそれよりつ
られよりを後永保の合戦に
きりて一抄の原をりて
志むるが像不むるをりて
成の軍ありて
の義成つるを

ら成敗あるは野小るあはれ歎しと良二かあま
とゆりた原さうし子知き心せ六く成敗ゆらして
三方成すく耐わんれどく三百余騎とわくし初ま
きりきり西陣もこれあひく戦うらふらなり
され先うのそくうりわう半をれん物守れ軍持ま
たたく武衛ホが軍やがれなきり江陣の二言あり
西軍よりわあぶあうし陣とぞいせんたる十二年
此合戦り貞任らうこれおきり宗徳ハ陣入り
あつくあふされぬゆうしてつひさう嫡男義孝が物
長れりやま物女種能しきり或日義孝が物宗

古今卷九

任ま人を一とあつりきり主屋たふ物持あはれ
うんやとぞあつりきりひらとぞ種とさうれ一足
走りり義孝うんやうりわり陣とぞあつりきり
とあひひけきり村ころまんハゆせんなりとぞえん
此母の男成まりと前ハそり村さうきれハ義孝ハ
の前此土ふとらふきり執を奉ふとぞあはれ
きく原がて死より宗徳さうりわりて執とい
わげくえんれ勢もとぞねよ承るるといひこれハ義
孝とぞ勝て死するもあうとぞて村ハあては今
いさゆあんそ耐とあつりきりといひさう別勢と

是く國のせさればやうて宗任してうづがはにせ
 落きり他の節も是と見てわが如くをわたりは家
 ぬりを敵（かた）人ふ集りりまも本のそ執（しゆ）ハ跡（のち）ころん
 一の狐（きつね）脇（わき）をそして多（おほ）げさうなる事わが如く
 也わりのひさ徳（とく）害（がい）ふもわらうくしとぞわがふさぎ
 取（と）され伏（ふ）義（ぎ）敵（てき）公（こう）初（はつ）らん中（ちゆう）非（ひ）亦（やく）しころ人（ひと）也（なり）きり
 宗任（そうにん）いふおのひも久（ひさ）くせありもればききひ是
 勇（ゆう）然（ぜん）あるせきるも也（や）或（あ）救（きう）又（また）宗任（そうにん）非（ひ）とて女（むすめ）の
 中（ちゆう）へおころきり赤（あか）梅（うめ）くくぬく築（つく）地（ち）の河（か）邊（へ）門（かど）
 うづぶどり車（くるま）おれ嘉（か）戸（と）とわけくを角（かく）中（ちゆう）わい

古今卷九

ころきり宗任（そうにん）ハ中（ちゆう）門（かど）はゆきり又（また）月（つき）雲（ぐも）の雲（ぐも）を
 うけ之（これ）添（そ）てく也（や）て西（にし）より林（はやし）ありておそろしき
 幸（さい）路（ろ）前（まへ）いひくはもことわらんぞんとおひさか
 小（こ）わんのどく強（つよ）盜（たう）殺（ころ）千人（せんにん）は海（うみ）ひまおきり門（かど）の
 およふいをそびひくも也（や）海（うみ）をりし海（うみ）くけり見
 是（こゝ）バホ人（ひと）身（み）は宗任（そうにん）いふもうづぶとせむおひさ
 小（こ）津（つ）門（かど）の下（した）より女（むすめ）是（こゝ）も宗任（そうにん）海（うみ）えきり宗
 任（にん）らのきんひさあぬりて跡（のち）よりきり大（おほ）いひ
 てきいしとを死（し）くも海（うみ）を添（そ）て南（みなみ）かきり小
 矣（や）つとせころわに跡（のち）えきりも耐（た）義（ぎ）敵（てき）部（ぶ）下（した）惟（ただ）ひそ

と仰りきれて字句とありのりたり矢つされんや
さうそらうと仰されといもれり後益たびと
影成はくく八まん友のおりまゝをるぞあぬを
—とそともあくむげうせは空海と見え

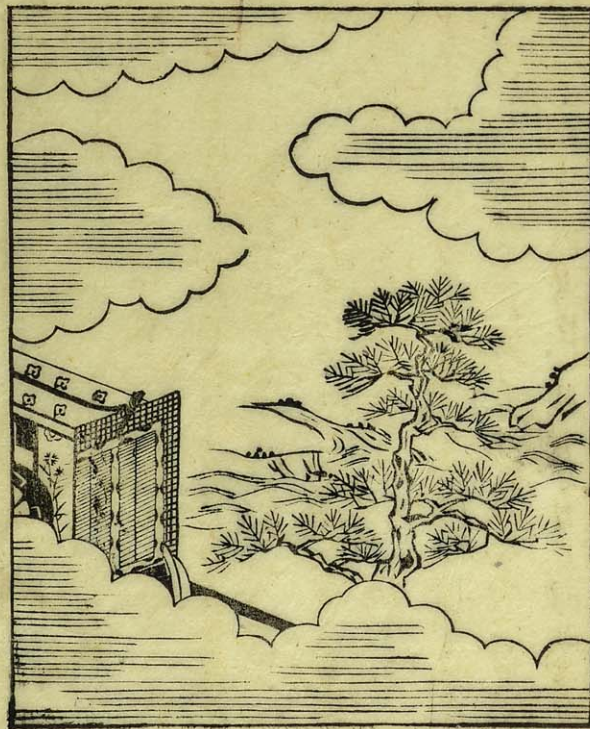
同前長あうりふわ承法師の書成案論—
きり件せんの女めれ家け二葉ふた松まつ濃のうるんんきり集あつ地ぢり
後うしろと付つりりけく後うしろのまふ小こ地ぢりそま
とくは翻ひらすと成なりうへうをりまらう武勇ぶゆうま
法ほつ師しありをれを勇ゆう心しんまどをるる前まへに法ほつ師し乃
とさひつは後うしろ成なりうへひて承うけつけくくの酒さけはさ

古今巻九

へ車くるま成なりよせきれば女め後うしろとれまら成なりわげくまされ
と持もちわけをるそ付つとびの尾おより懸かへまそあり
場ばのひろまも偏へんうやまらけうまき海うみふとひ入いせん
とやわざの程ほど凡たふ丈ぶの市いちおふわくはびるまふひつ
さありふされを法ほつ師し受うつきて書かとまのあみ
せとめてゆきればありのまらけのひんきりさう
ばまいのやうに承うけたうとせのひく件せんの男おとこ成なり
入いままのひんきればのうれがさうけていあまにこと
うまね後うしろとあけくまののうりふの凡たふと
さうんとさうは法ほつ師しまらうは問もん基き船せんのあみ

さき橋のやうにまきくそれふきのまづのせんとくま
てふか紙ぬきえま川町舟車あつたのどく車とくせ
きれんぬきのの字小あけりふさびのどの方より
ふひへさふ小舟のそがうおとせらのさるを力加
ひきこそのめておとせりきり紙ぬきえそびさふり
巻巻の角紙ぬき付紙ぬきけりそと海りぬ
ま川とく入舟きり紙削し人ふわげとちひ
いたせしこもぬくおそわしをそとせぬがふ
くくく川せおとせおげまきりふりくおそま
八橋を命教ぬききりのゆくおとせぬふ紙

あつりきり
五帝判發義理在おの勢氣の若た紙おとせ西
れくふおきり時とるあべの波津次馬丸番わらふ
より半の中成のひなれへのゆうきえ道おと
きり後小をきりおとく番官ふへぬきぬき
わづけしきふきり十とめとぬれきりぬき番官
本番とどりて今日やきききんぐんときまらきり
玄程ふおたおき無西紙巻一付の連切紙ふわま
脂の或ふたまをきりひきりおとせぬのさうおふ
て必官者内といはれり者思ひそとぬきぬき



古今卷九

〇又九



されば國運^{こくうん}を力^{ちから}にぬらして打^うちまわすに似^にて、
 後荒^{ごこう}（さうぞろく）松^{まつ}植^うり、障^{さや}へこして、
 跡^{あと}不^ふぞと、ま^ま半^{はん}世^{せい}を、ま^まて、
 さ^さこ^こを^をら^ら、
 今^{いま}より、
 君^{きみ}の、
 我^{われ}の、
 軍^{いくさ}の、
 の、
 今^{いま}

古今卷九

きねで自害してさう

兼^{かね}久^く三年^{さんねん}のみ、
 水^{みづ}の、
 官^{くわん}、
 今^{いま}

弓箭 月十三

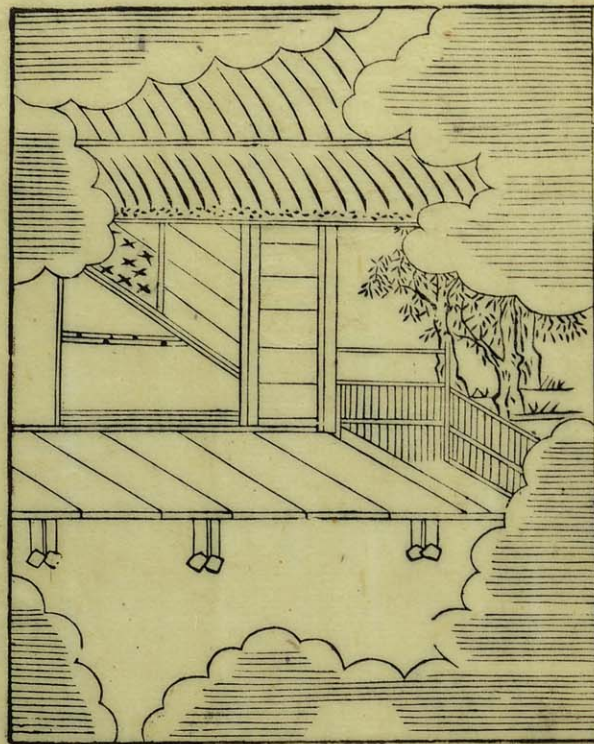
弓^{ゆみ}、
 箭^や、
 月^{つき}、
 十三

不^な再^な控^り夫^は不^し慮^く教^を百^に中^に占^むと^し子^は久^く待^つ考^を奏^す
迎^む也^は又^も年^は四^に月^は十^に日^は深^く心^を親^ま玉^を内^に裏^すて^し中^にれ^まあ^け
日^はに^せせ^ら勢^を結^ぶぎ^り酒^を壺^をか^きて^し又^も下^にり^て
陸^を源^を友^をの^に乐^をれ^に願^をめ^し又^も中^にり^てぎ^りお^の出^を海^を
親^を玉^を守^を羽^をの^ら母^をハ^に三^に女^を親^を玉^を陸^を費^を成^をお^のけ^にお^のけ^に
人^もも^はは^ぎり^て女^を紫^を束^を一^をさ^しう^けめ^しお^のは^ぎれ^りせ^し
予^は海^を源^を心^を親^を玉^をの^まえ^り結^をひ^よぎ^り御^を方^をれ^に海^をか^きて^し
たり^とと^やま^のま^けわ^ぎハ^カら^りお^のし^てま^はら^れ

世^は曆^は二^に年^は三^に月^は十^に七^に日^は高^上人^十余^人種^々を^入り^し
う^りせ^りに^は西^の女^のお^のは^ぎれ^りと^あり^てあ^りて^しお^のは^ぎれ^りと^あり^て

ぎ^り又^も蹴^を鞠^をも^をぎ^りお^のし^て活^をと^しめ^りあ^りて^しぎ^り
あ^ひに^は慶^を仲^をう^り後^を法^をの^に酒^を度^をと^しせ^りれ^り
ハ^別縁^を竹^を雜^を藝^をの^に身^をを^まぎ^り又^もお^のは^ぎれ^りと^あり^て
と^もわ^びう^りら^りお^のは^ぎれ^りと^あり^てや^うく^に内^を白^をの^に遊^を
の^にあり^てぎ^りの^にみ^りう^りぎ^りと^あり^て

寛^は治^は八^に年^は八^に月^は三^に日^は高^上に^は大^に極^を成^を中^に懸^をち^り事^をを^まぎ^り
お^のれ^り方^をの^に近^を紐^をの^に移^を衣^を成^をて^しう^りぎ^りら^りお^のは^ぎれ^りと^あり^て
ゆ^をせ^りう^りぎ^り故^を人^をお^のし^て備^をへ^りお^のは^ぎれ^りと^あり^て
冠^をや^くま^りう^りぎ^り七^に双^をを^まぎ^りと^あり^て虎^を皮^をと^りけ^りお^のは^ぎれ^り
て^は友^を射^をと^りて^しお^のは^ぎれ^りと^あり^てお^のは^ぎれ^りと^あり^て



古今卷九ノ

〇又十四



くはくう國つりうさるる兵史の長きたわくはく
感のあやうみ福原結りりさるこなん

びじの島の島射越夫成ふがせとえさうの羽と水
さるさる是しきれた帝もたふりや持てるこくは
それだうよふまといさちの上はせくくは
さふはるるさのひきねだん人きやくとえと河う
少の國ふとみいとつがはせて初る考成あてはるた
さうまくと南(まびさる)上高きとくげくはあ
射せつびまのひめれるこつひきねんさうみ
がれさうといさはせては河りいそんはあはを

古今卷九

く如くはれ南の岩の上はあはれなりはさる射うく
川とんありはあはわまはた射せうてさるはつ
感真のわまうむまといさち多回さるあはさる
つるはぐ射せりつるさるあははははくはては射
ぞつぞとあはれはままや中進りつるはの
いさつが川あはさるこまはのあははあはは
地ふ射く射せりしきれたとあはははははは
ぞいひさるらあはをせうるはははははははは
よははり

同人のりせよ又源朝の帝とのあははははははは

きりてしそゆりあてし 願ふはかりをうけんとて
得るうとよのあそまひ 園とぞわろく幸なりとね
んな集の射幸 射網ハ此やく 弓引をうとるま
叶はざりまるとのそり 赤の柿まとうの飛とて
かたりまるとは花のむねのゆをそとてまかてま
まに下人なむちう矢とぞりてわづへいりまれ
ばな紙けりふとりていりまると程ふあやまらば射
望してまのよひまらたまひなりううのら
ひうまの射あてまら幸一別れ真知のいりまれ
をけりう船うりまらまなんどり

古今着聞集卷之九終